

非核日本キャンペーン 高知県ニュース

2024年11月13日

発行 高知県原水爆対策協議会
高知市丸ノ内2-1-10 088-875-3917



四国の生協連が夏に開催したものです。早くに記事は頂いておりましたのに、事務局の怠慢で、皆さんへのお知らせが遅れました。お詫びもうしあげます。ニュースを出していなかった間に、被団協がノーベル平和賞を受賞するなど、世の中は、核兵器廃絶に大きく動いています。事務局も、頑張っってニュースを出していきます。

ピースアクション in こうち 被爆ピアノコンサート

2024年7月6日(土)高知県立美術館ホールにて高知県生活協同組合連合会の主催で、ピースアクション in こうちが開催されました。四国の生協連が横断幕を引き継ぎながら開催し、8月4日の広島市民平和行進へつなげていく催しです。被爆ピアノコンサートとしての開催は7度目となります。



高知県生協連ではここ数年、広島で被爆したピアノを再生し、自身の活動を「平和の種蒔き」と表現して全国でコンサートを行っている、調律師の矢川光則氏に協力していただいております。

また、コンサートと併せ、被ばくピアノを通じた平和学習として県内の小学校で被ばくピアノ演奏会を行っています。最初の挨拶の中で西山武会長は、前日に訪れた四万

十市の竹島小学校では授業が終わった後、体育館に残った児童が自発的に演奏を始めたところ、移動し始めていた児童が再度ピアノのまわりを囲み、演奏している児童が感極まって涙ぐむという感動的な場面があったこと、また四万十町の窪川小学校でも同様のことがあったことが紹介されました。

講演は79年前12歳の時に広島で被爆された高知市在住の植野克彦(91)さんに被爆体験をお話ししていただきました。市内の火災による類焼



窪川小学校での平和学習



植野克彦さん

を防ぐために建物を壊す防火帯づくりに駆り出されていた中学1・2年生 8,000 人中 6,000 人が原爆で亡くなりました。上野さんの学校は作業から外され、爆心地から 1.5Km、農作業のための移動中に被ばくにあいました。80 歳を過ぎてから被爆体験を継承していくために語り部を始めました。「最後の継承者として、もう 2 度と被ばくのニュースを聞きたくありません。今の核爆弾は広島、長崎に落ちたものとは比べものにならないくらい進歩し威力があります。核戦争に勝者はないと言いつつづけたい。平和っていいもんです。」と話されていました。



親子の演奏

講演の後、一般公募で選ばれた方を含む 8 組の出演者による演奏や合唱があり、被ばくピアノの奏でる平和の音色が会場に響き渡りました。

ロビーではヒロシマ・ナガサキの原爆写真パネルと併せてビキニ被災のパネルや来場者の平和のメッセージが展示されていました。

平和を願う音色が世界に届きますように。



コンポーザーピアニスト 朝香智子さん

